

# 千代川タイムライン検討会 研修会 ニュースレター

令和元年7月31日（水）鳥取河川国道事務所(14:00~16:00)

資料2

— 次第一 —

1. 開会の辞 鳥取河川国道事務所 浜田副所長
2. 挨拶 鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授
3. 千代川の概要 鳥取河川国道事務所
4. タイムラインの説明 パシフィックコンサルタンツ株式会社
5. 自己分析シートを用いたグループワーク
6. 総評 鳥取大学大学院工学研究科 三輪浩教授

## ◆ 参加機関（県、市、他21機関）

座長	鳥取大学大学院工学研究科	
気象庁	気象庁 鳥取地方气象台	
鳥取県	県土整備部 河川課	
警察	鳥取県 警察本部 警備第二課	
	鳥取警察署	
	智頭警察署	
	郡家警察署	
市町	鳥取市 危機管理課	
自衛隊	陸上自衛隊 第8普通科連隊	
消防	鳥取県 東部広域行政管理組合 消防局 警防課	
ライフライン	中国電力株式会社	鳥取営業所
		鳥取電力所
	鳥取ガス 株式会社	施設管理部
通信インフラ	N T T 西日本 株式会社 中国支店 鳥取営業所	
鉄道	J R 西日本 株式会社 米子支社安全推進室	
バス会社	日本交通 株式会社 鳥取	
	日の丸自動車 株式会社 鳥取	
報道関係	NHK 鳥取放送局	
	日本海テレビジョン放送 株式会社 報道制作局	
	株式会社 山陰放送 鳥取支局	
	山陰中央テレビジョン 株式会社	
	日本海ケーブルネットワーク 株式会社 鳥取	
	株式会社 鳥取テレピア（いなばぴょんぴょんネット）	
国土交通省	中国地方整備局 鳥取河川国道事務所	殿ダム管理支所
		河川管理課
		防災課
		道路管理一課
		道路管理二課（欠席）

## ◆ 研修会の内容

### 3. 千代川の概要

- ✓ 千代川流域の概要、主な洪水被害、整備状況
- ✓ 大雨等の規模と減災対策
- ✓ 千代川水系 洪水浸水想定区域図
- ✓ 平成30年7月豪雨…事務所管内の被災状況、岡山県倉敷市真備町の被災実態



### 4. タイムラインの説明

- ✓ 千代川におけるTL作成のポイントを共有
  - 広範囲に渡る浸水 ⇒ **的確な避難行動に向けた多様な防災活動を行う。**
  - 交通途絶・ライフラインの停止 ⇒ **早期の復旧活動、社会経済被害軽減を目指す。**
  - 情報途絶 ⇒ **的確な情報収集・情報発信を行うための連携を強める。**
- ✓ 千代川TLの作成手順

多機関連携

### 5. 自己分析シートを用いたグループワーク

- (1) 自己紹介
- (2) グループワークの構成（①防災情報 ②避難対応、広報・報道 ③大規模避難・救助 ④社会基盤）
- (3) 水害リスクの把握
- (4) 自己分析シートの作成、共有、発表

同様の役割を有する機関で1グループを構成し、全4グループ作成。  
※グループワーク初回は、各機関で共通する、水害発生時のミッション・自機関の水害リスク・タイムラインへの期待・防災行動に対する懸念を共有しました。



# ◆ 研修会ワーキングの成果（グループごとの成果とりまとめ）

⇒ 4つのテーマについて、各機関の自己分析を行いました。

①防災情報		②報道・避難対応		③大規模避難・救助		④社会基盤	
①水害発生時におけるミッション	②自機関に係る水害リスク	①水害発生時におけるミッション	②自機関に係る水害リスク	①水害発生時におけるミッション	②自機関に係る水害リスク	①水害発生時におけるミッション	②自機関に係る水害リスク
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の収集・提供・発信</li> <li>ホットラインの確実な実施</li> <li>各関係機関の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員参集の可否</li> <li>施設の被害とそこで業務が執行できるか</li> <li>インフラ施設の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集</li> <li>放送で発信</li> <li>気象</li> <li>河川</li> <li>被害</li> <li>避難</li> <li>ライフライン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他 通信インフラ</li> <li>水没</li> <li>ケーブル</li> <li>送電</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報、避難誘導、防災無線</li> <li>救助</li> <li>住人の安否確認</li> <li>交通規制措置</li> <li>一般治安の維持</li> <li>住人の生・身・財を守る</li> <li>被害の拡大防止</li> <li>被災地への配置</li> <li>出勤経路の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害危険箇所の把握</li> <li>知識不足による二次被害</li> <li>庁舎機能（代替施設の確保）</li> <li>他県の応援受入れ体制</li> <li>道路の確保</li> <li>部隊の待機場所はあるか</li> <li>隊員の安否、出社は可能か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の安全確保</li> <li>ライフラインの提供継続、早期復旧</li> <li>代替運行。被災地以外の広範囲での被害を想定して継続的に運行していくことが大切。</li> <li>避難所へのライフラインの確保（電気・ガス・通信など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各設備、施設の浸水</li> <li>停電は各事業所の共通リスク</li> <li>運行ルートの確保、車両の浸水を避けるための高所移転などハード・ソフト面でのリスク</li> <li>電源・燃料の確保</li> </ul>
③タイムラインに期待すること	④水害時の防災行動に対する懸念事項	③タイムラインに期待すること	④水害時の防災行動に対する懸念事項	③タイムラインに期待すること	④水害時の防災行動に対する懸念事項	③タイムラインに期待すること	④水害時の防災行動に対する懸念事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>求められている情報を発信すること</li> <li>確実な連携と協力</li> <li>応用のきくシナリオ（タイムライン）の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の過多で何が重要かわかりにくい</li> <li>正常性バイアスの払拭</li> <li>タイムラインを同時に実行しているのか（横の連携の確認方法）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生放送できるか？</li> <li>情報は紙？</li> <li>人が足りない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>他機関との情報交換、関係機関との連携（迅速な、的確な）</li> <li>避難先、経路の確認</li> <li>二次被害、危険箇所の情報共有</li> <li>引き継ぎ先を明確に</li> <li>他機関の対応が分かる（自分のところは何をやるのか明らかに）</li> <li>正しい被害状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通の確保はできているか</li> <li>避難者は避難できるのか、帰れるのか</li> <li>人員、装備の問題。能力も。</li> <li>住人の早期避難</li> <li>部隊規模に応じた拠点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確な情報の収集</li> <li>今後の各機関の対応、先を判断するための基盤になること（運行の可否や車両移転など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社員の安全確保</li> <li>智頭方面へ道路寸断により行けない。（そういった情報が早くほしい）</li> </ul>

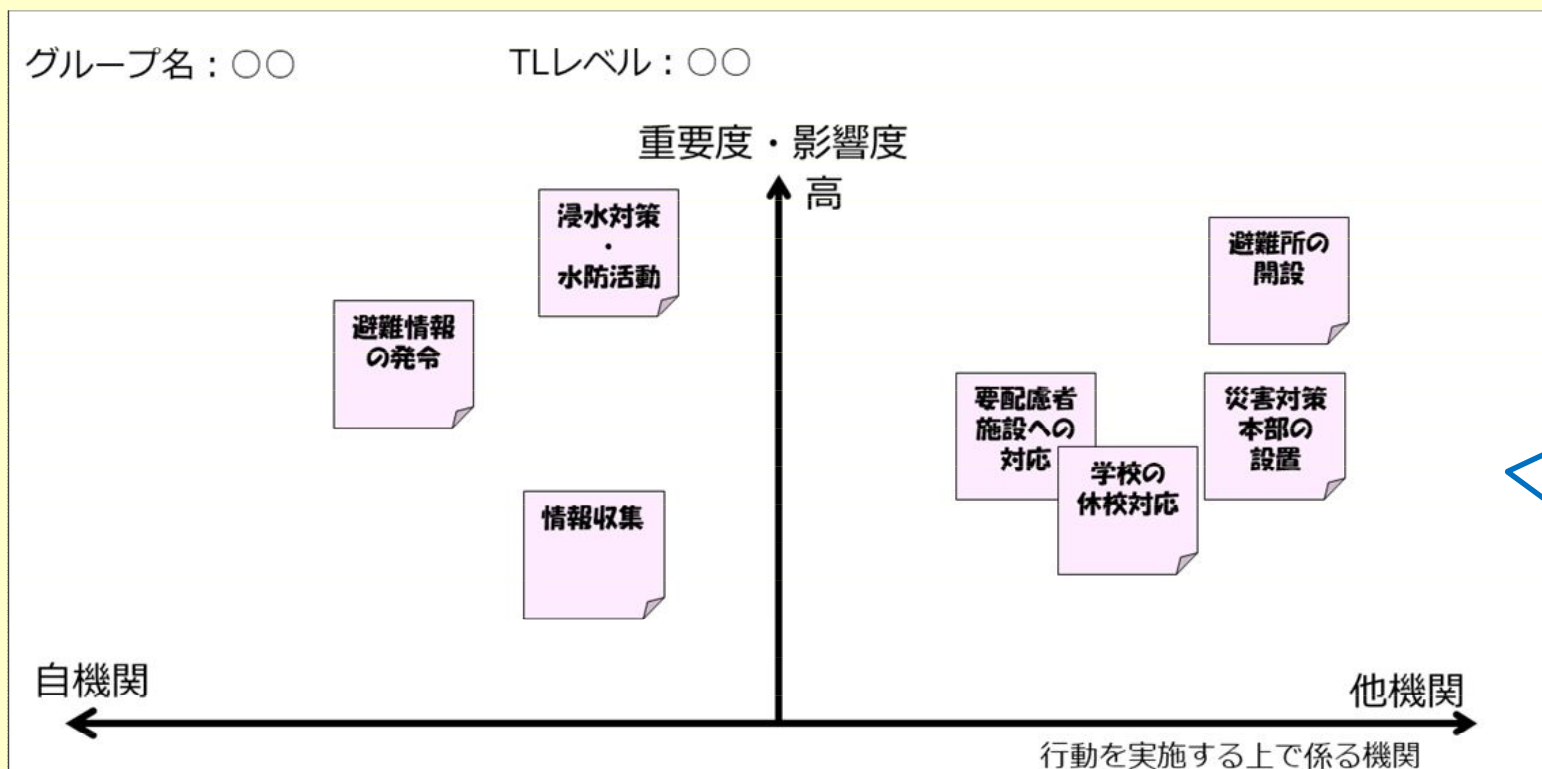
## ◆ 第1回タイムライン検討会の予定

- 開催時期：令和元年 9月20日
- 検討会内容：防災対応の目標が重なる機関・部署ごとのグループワーク
  - 想定災害シナリオの把握
  - 自機関に関する浸水リスク情報の把握
  - 防災行動項目「何を」の抽出と、防災行動項目のTLLレベルごとの整理

同じグループ内の他チーム（他機関）と声をかけあって、必要な情報を聞きながら進めます。



グループワーク（日野川の事例）



### ■ ワーキングシートの作成

- 想定災害シナリオ（気象状況、気象情報の発表、浸水状況）を把握した上で、各機関が事前作業で抽出した項目をベースに、防災行動項目の追加を行い、ワーキングシートに時系列で整理。